

[普及事項]

成果情報名：アユの早期放流技術の開発

－大型のアユが多く釣れる放流技術の開発－

研究機関名 水産振興センター 増殖部

担当者 佐藤正人

[要約]

人気が高いアユ友釣り漁場造成のため、現行法よりも大型のアユが数多く釣れる早期放流（放流後の日間最低水温が8～13℃となる時期の放流）技術を開発した。

[キーワード]

アユ・放流・放流時期・放流水温・友釣り

[普及対象範囲]

アユを漁業権内容魚種とする内水面漁業協同組合

[ねらい]

アユの縄張り習性を利用した友釣りは非常に人気が高く、毎年7～9月には多くの釣り人が県内河川を訪れるため、アユの放流事業を行っている内水面漁業協同組合からは、友釣りで良く釣れる放流手法の開発が求められている。

そのため、現行法である放流後の日間最低水温が13℃以上となる時期の放流よりも、大型のアユが数多く釣れる放流技術を開発した。

[成果の内容及び特徴]

- 1 現在、アユの放流は1990年代以降に蔓延した冷水病防除のため、「アユ疾病に関する防疫指針」に基づき、放流後の日間最低水温が13℃以上となる時期（6月頃）に行われていたが、本試験及び他機関での研究結果から、放流による増殖効果が認められる日間最低水温は8℃以上（5月以降）となった。
- 2 放流稚魚を本県産の低継代魚とすることで、冷水病の発生リスクを低減できた（冷水病耐性：本県産低継代稚魚＞同高継代魚・琵琶湖産稚魚）。
- 3 稚魚のkg当たり購入単価が同等の場合、購入できる稚魚の体サイズが小さくなるため、放流尾数が多くなった。
- 4 日間最低水温が8～13℃となる時期（5月頃）の早期放流によって、現行法よりも数多くのアユを資源添加でき、友釣りで釣れるアユのサイズと尾数が増加した（図1、表1）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 放流時期の水温は1日に1～7℃増減するため、最も低い午前5～7時の水温を目安とする。
- 2 小河川においては、放流によって天然アユの成長を妨げてしまう可能性があるため、放流尾数等に配慮が必要である。

[具体的なデータ等]



図1 友釣りで釣れた早期放流されたアユ

表1 放流試験の結果

	早期放流	通常放流
放流		
時期	5月中旬、下旬	6月上旬
日間最低水温(°C)	8~10°C	13~14°C
全長	小さい(8~10cm)	大きい(10~12cm)
放流尾数	同重量において通常放流を1とした場合、 早期放流は1.1~2.6倍	
再捕(8月)		
生残率 [※]	同等(生残尾数:早期放流>通常放流)	
釣獲尾数	通常放流を1とした場合、早期放流は3.1~4.9倍	
釣獲魚の全長	大きい(19~20cm)	小さい(16~18cm)

[※]投網と友釣りでの再捕尾数から推定した生残率

[その他]

研究課題名：内水面重要魚種の増殖効果を高める研究・秋田の内水面魚類増大事業

研究期間：平成27年度～令和3年度

予算区分：県単

掲載誌等：水産増殖第66号(2018)